

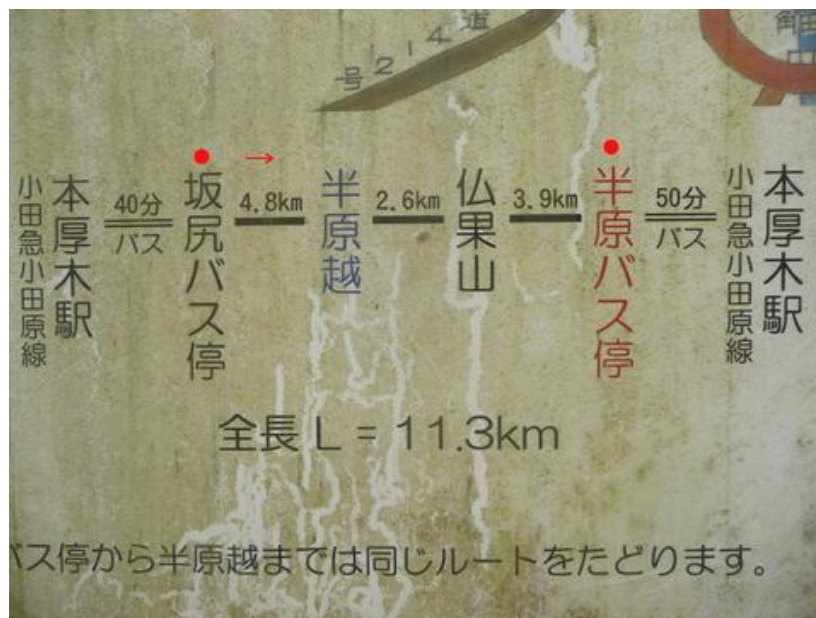
## 関東ふれあいの道を歩く (12) 神奈川 (⑫丹沢山塊東辺のみち)

2019年9月25日池内 淑皓

2019年8月25日(日) 炎暑がようやく一息ついたので、ふれあいの道を歩く事にした。前回は日向薬師の道を歩いて、宮ヶ瀬方面に行く県道64号線の御門橋バス停が終点であったが、今日はその先煤ヶ谷の坂尻バス停から仏果山への道を歩く。この道は江戸時代修験者通る道であると云われているので、多少の難所があるらしい。



⑫丹沢山塊東辺のみち 概念図 (首都圏自然歩道連絡協議会)



坂尻→半原越→仏果山→半原バス停 11.3kmの行程図



今日歩く鉄道下車駅は「本厚木駅」



本厚木駅から宮ヶ瀬行きバスに乗ると、40分程で「坂尻」バス停に着く



バス停前には関東ふれあいの道案内板があり、親切に近道まで教えてくれる





バス道から一本脇道を入り、法論堂（おろんど）集落を通る。修験者が通った道だと言われる



川に沿って法論堂林道で峠を目指す、またこの道は煤ヶ谷と半原を結ぶ絹の道でもある。



林道途中に昭和60年設置の、ふれあいの道石柱が建つ





半原越の峠、舗装道路を左折すれば半原の集落に至る、右は林道



峠から右手に山道を辿れば経ヶ岳（633m）に至る。手前に行く道は仏果山への道

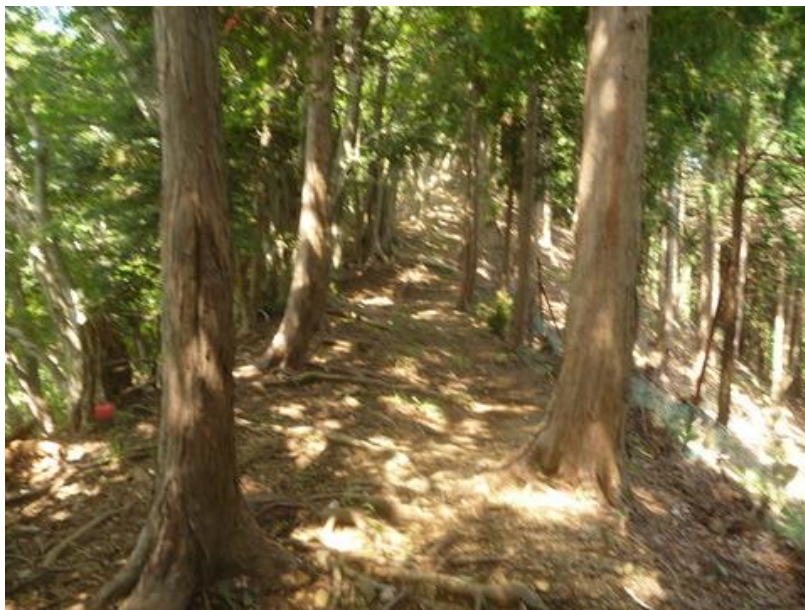


左手の尾根に取りつければ、仏果山（747m）に至る、ここでも石柱が案内してくれる。





まずは害獣除けフェンスの扉を開けて、尾根道に出る。この辺りから鹿、猪らが跋扈して植林の若芽や、畑の作物を荒らすと言う



仏果山への尾根道は快適で、盛夏にも関わらず吹き抜ける風が心地良い



仏果山登山口方面バス停へ下る土山峠への道を分岐するコル。ベンチがあるので、ひと休みするには丁度良い場所となっている。





この辺りが半原へ5.3km、坂尻へ6.0kmの里程標が埋まる



長々と続く木枕の道に悪戦苦闘すると



やっと草籠石山（640m）に着く、一息入れたい。





ここから仏果山に向かって修験道の核心地帯に入る、尾根は痩せ聳ってくる



一番痩せた尾根の部分、草付きが無ければ、見通しが利いて恐怖心が出るだろう



ロープや鎖で道は固定されるが、岩がもろく崩れやすい





「仏果山（747m）」 賽の河原の如く石を積み、観音菩薩が置かれている。  
仏果山の名のいわれは、清川村煤ヶ谷の正住寺（現存）を開創した、仏果禅師がここで修業したので、その名が付いたと云う。



記念に一枚、パチリ



ここには鉄製の展望台が設置されており、360度見渡すことが出来る。遠方の山は大山（1252m）





宮ヶ瀬湖と後方の尾根は丹沢主脈、焼山（1060m）、黍殻山（1273m）、姫次の尾根



仏果山から半原への道は、尾根通しに杉の植林道に沿って下る



県道 R514 号線の側道を潜り、道標に従って町に向かう





「つい最近まで操業していた撚糸屋さん」半原は糸の町、昔はこの村の殆どが水車を懸け、その動力で撚糸機を回し、糸を撚っていた、半原ではこうした場所を「沢よりや」と呼んでいた（解説板）



文化四年（1807）小島紋右衛門が、桐生から八丁式撚糸機を導入したのが始まりと伝える。  
時代の波に押されて、今は主として絹、合成繊維を初めニット用撚糸、産業資材撚糸等を製造している





集落に入ると、町中の路地を縫うように道標があり、ゴールの半原バス停へ導いてくれる。  
バスは1時間に2本出ている。

[コースタイム]

本厚木駅（7：50）→坂尻バス停（8：30）→半原越（10：10）→革籠石山（11：15）→仏果山  
（12：00-13：00 昼食）→半原バス停（14：50） 20,500 歩 14.8 k m

この項完

関東ふれあいの道を歩く（13）神奈川（13）山里から津久井湖へのみち）に続く